対人援助マガジン　６０号

教室の窓から

令和 6年
(2025年)2 月
來須 真紀

対人援助的授業作り

学校では、日々授業が行われ、教員たちは子どもたちに学力をつけようと奮闘しています。一日4時間から6時間。多いところでは7時間授業というところも。教科は国、算(数)、英、理、社、音楽、図工(美術)、家庭科、技術、体育、学活、総合的な学習の時間、道徳、書写など。教科担任制の学校は1教科をたくさんのクラスで授業し、クラス担任制の学校は1クラスに専科授業以外の教科を授業します。小学校はクラス担任制が多く、中学校からは教科担任制が多いですが、最近では小学校でも教員の専門性を生かしたり、チーム学校を進めていくにあたったりで一部教科担任制を取り入れている学校もあります。

授業作りの基本の「き」

授業をするにあたり、小学校の教員がまず大切にするものの一つとして「教科書」があります。(ごくまれに、教科書以上の授業を教科書を使わずにやっちゃう教員もおられますが、そのお話はまた今度)私たちが、授業をするのに一番大切にしなければならないものは「学習指導要領」なのですが、実は、教科書は、学習指導要領を全モーラしている優れモノなのです。なので、私も教科書を進めていくことを基本に授業をしておりました。

授業作りの基本の「ほ」

次に考えるのが、「今日はどこからどこまで進めようかな」ということです。通常学級であれば1年間で当該学年の教科書はすべて終わらせないといけません。そのため4月には「年間指導計画」や「シラバス」が作成され保護者にも公開されます。それに付け加えて、「成績の締め切り」や「ほかのクラスとの進度をそろえる」とかで、ゆっくりも進められないし、ぐんぐんも進められない。程よく適度に時間をかけなけらばなりません。この点も教科書によってはよく考えられてるものもあって、「一時間はここからここまでやれば OK。流れもこ教科書通りに進めればいいですよー。」と目安があるものもあります。教科書って本当によく考えられてるなと思います。

授業づくり基本の「ん」

ここからが、対人援助職としての教員の腕の見せ所。まず、「うちのクラスに授業するとしたら、一時間でどこまで進められるか」を考えます。「ちょっと理解するのに時間がかかるかもしれない」と判断したら教科書は１時間で進めるようになっているところを２時間かけたり、反対に「ここは理解が進んでいる」と判断したら２時間で進めるようになっているところを １ 時間で進めたりします。クラス実態をアセスメントして進度を調整しているのです。

ここからが本番

ここまでは、授業の内容を考える前の下準備。前にも述べたと思うのですが、学習指導要領には、各教科の目標があります。教員はその目標を達成させ子どもたちに力をつけさせようと授業します。当然各1時間の授業にも目標があります。教員は一時間一時間、子どもたちが目標を達成できるように授業を組み立て、支援を考えます。

アセスメントはどうやって？

では、支援を考えるためのアセスメントはどうするか？これは、授業づくりにとってとても大切です。学習達成度のアセスメントと子どもの個々の特性のアセスメントとクラスの集団のアセスメントと人間関係のアセスメント。私は主に４つの視点からアセスメントし、「だから、このような授業づくりをし、だからこのような支援が必要」と考えるようにしました。授業づくりもアセスメントに始まりアセスメントに終わると思っています。ここは、対人援助職も学校も同じだと感じています。アセスメントをしてニーズを考え、支援を入れる。児童福祉司になり、ケースワークも授業づくりも似ているなと感じています。

では、次回、4つのアセスメントをどうやって？という話をしたいと思います。

余談。最近のこと

学校を近接領域ですが外から見るようになって2年。学校の基本はやはり「授業」と「学力保障」だと思っています。この2つは、どんなに近接領域の私たちが頑張っても踏み入れることができない領域です。学校は勉強を教えるとことなんです。それ以外のことは、学校と各機関とで協働して、役割分担したらいいのだと思います。児童相談所だって、警察だって、子ども家庭センターだってたくさんの協力者はいるんです。もっと言えば、町内会、子ども会、地域にもたくさんの協力者いるんです。だけどその協力者に「授業」はできないのです。

学校の先生は「授業」で子どもたちとつながることができていいなーと思います。

一時間一時間に子どもたちと目標が共有できるだなんて。。。実はすごいことなんです!!学校の先生たちには、そのすばらしさや大切さを心にとめておいてほしいなと思います。

ちなみに、最近、小学生の長女の同じ部活の保護者にラインでこんなことを言われました。「娘さん、部活のコーチに挨拶ができてないですよ。(母親は)学校で勉強を教える前にもっと大切なことを教えなきゃならないのではないですか?」と。もちろん、長女には挨拶をするように言いましたし、コーチには長女の非礼を謝罪しましたが、(母親が)学校の先生なのになんてことは本当に余計なお世話だし、挨拶できていない現場に遭遇したのならその場で長女に直接言ってくれと思いました。また、学校で教員が勉強を教えて、何が悪い?私は教員で教員はそれが仕事だしそもそもなぜわが子の失態に母親の職業を引っ張り出してこられないといけないんだと心底腹が立ちました。(まあ今は児童相談所の児童福祉司なんですが)

何が言いたいかと言いますと、「学校も同じように言われている」ということなんです。地域であいさつしない子や公園や地域でで失態する子の苦情は、学校に言われることがたくさんあります。「学校で地域であいさつするように指導しろ。勉強を教えるより大切なことがあるだろ?」「公園でのマナーをきちんとさせろ。勉強を教えるより大切なことがあるだろ?」等々。学校はとてもまじめです。当然一つ一つ指導をして取り組みをします。地域の声を受け取り指導したり取り組みをしたりすることはもちろん大切ですし必要なことです。しかし、学校に置いて「勉強(授業)を教えること」は一番大切なことだということを学校も地域も協力者も忘れてはならないことなのではないかと思うのです。